

高齢者の余暇活動について（5）

—主にコホート別による余暇活動の実状—

○上野 幸、山崎律子、高橋和敏（余暇問題研究所）

キーワード：高齢者、余暇活動、コホート、レジャー・レクリエーション研究

はじめに

本研究は、過去7年間にわたる本研究者らの関連継続研究（1997～2002、第29～31回大会発表）の一環である。

まず、本研究の意義を明らかにしたい。

本研究は、面接を主体にした事例聞きとり調査をとり入れている。質問紙法などによる量的手法は、短期的に多量なデータを収集でき、短時間で結果を見出す事ができる長所がある。しかしながら、現実の人間一人一人の機微に関わる部分は量的な手法においてあらわれるとは限らない。これまで継続してきた研究からも、対象者からの生の声を聞くことが対象者を理解するためには適切と強く感じた。さらに実践的な場面においても生かされる。

また、本研究ではコホート（同年代、同経験の群）の概念に着目している。これまでの継続研究において、対象者の共通項を見出してきたところ、コホートの概念に類似していると考えられた。老年学の加齢研究における測定方法においては、すでに長田ら（「高齢者の『こころ』事典」中央法規：2000）がコホートの差を含めているとある。高齢者の心理療法の分野においても Bob G. Knight（「高齢者のための心理療法入門」中央法規：2002）はコホートの差を理解することが高齢者を理解する重要なポイントであると著している。実践的なレジャーレクリエーション研究においても、高齢者を対象とする上では有用と考えられる。

対象と方法

- ・対象：1999年から2002年までの本研究の面接対象者14名中9名を対象（表1）

表1 調査対象者一覧

	性別	生年	初回面接時年齢	今回	出生地
J氏	男性	大正6年	86歳	87歳	東京都
K氏	男性	大正9年	82歳	83歳	東京都
L氏	女性	大正12年	80歳	81歳	栃木県
D氏	女性	大正15年	74歳	78歳	東京都
E氏	男性	昭和6年	69歳	72歳	台湾
F氏	女性	昭和8年	68歳	70歳	九州
G氏	男性	昭和9年	67歳	69歳	愛媛県
H氏	女性	昭和10年	66歳	68歳	東京都
N氏	男性	昭和14年	65歳	66歳	広島県

- ・調査時期：2003年6月～8月

F氏（70歳女性）

現在の余暇活動ージャズダンス&ストレッチ、コーラス、「第九」をうたう、
ボイストレーニング。

「ボイストレーニング・・・はじめた理由はいろいろありますが、もともと音楽が好きなので、今一番の楽しみ。」

G氏（69歳男性）

現在の余暇活動ーガーデニング、クッキング（男の料理）、海外旅行、読書。

「ガーデニングは退職後からはじめた趣味の一つである。毎日の生活に楽しみと潤いを与えるので、農産高校や区の講習会に積極的に参加した。現在はマンション住まいのためベランダでの花づくりをし、野菜は区の貸農園で栽培している」

H氏（68歳女性）・・・インタビューをまとめた。

現在の余暇活動ーフィットネスクラブ、旅行。

「・・・朝からクラブに行くことしか考えていない。この4日間が生活の糧である。後は休みと仕事・・・楽しいことがあるとどんどん進める・・・」

N氏（66歳男性）

現在の余暇活動ー元会社OB会幹事、被爆者の会役員、健康体操（役員）、登山、
ハイキング、ゴルフ、スポーツ観戦、クイズ、旅行、観劇。

「夏山登山・・・富士山登山では60才以降毎年誕生日の故、呼吸・体力・バランス・俊敏性等のチェックを心掛けている。（自己判断のため、精度不明）」

考 察

対象者をコホート別で分類し、その特徴と思われる点をまとめてみた。

<80歳以上の男性：成人としての戦争体験あり>

- ・20歳代頃或いは子供時代から興味や関心があり実際に続けてきている余暇活動を、変わらず継続している。それでいて、現状維持という考えはなくさらに深めていきたいという向上心や意欲がある。
- ・その活動を継続するための環境を整えたり、体調を安定させるための努力を非常に行っている。
- ・現在、役割や立場が安定しているところは退く意志があまりない。
- ・自分自身のやりたいことがはっきりしており、そこに邁進していききたいという強い思いがある。

<70歳代後半および80歳代の女性：成人としての戦争体験あり>

- ・子供の頃から興味があり好きだったものや、成人してからもなかなか始められなかった余暇活動を中高年代で開始し、現在も継続している。
- ・その活動を始めた動機がはっきりしており、周囲の友人や家族にも話している。

・調査方法

自由記述式のアンケート用紙を直接配布。事前または配布時に説明を行った。後日直接回収または郵送かFAXにて受け取る。回収時に再度面接をした。

・調査内容

『現在興味があつて、実際にやっていることをお聞かせください。そのやっている名称と内容についてもお書き下さい。』という文章を載せたA4版の用紙に自由記述でお願いした。ただし、14名中2名は対象者がインタビューを選択したため、その内容をまとめた。

結果 : 下記に結果の概略をあげたい。

J氏(87歳男性)

現在の余暇活動－絵画および絵画教室の講師、ラジオ体操、太極拳。

「私は幸い、絵のことで頭が一杯、やることが多く忙しい日々を送っています。

・・・つまりプラス思考の老年を過ごすことがいいと思っています。」

K氏(83歳男性)

現在の余暇活動－戦友会会長、慰霊会役員、先輩、同僚など戦没者の慰霊、天皇家の歴史、大東亜戦争敗戦の構造研究、法句経、パソコンの初歩学習。

「・・・勢い座学的な方向に向はざる得ない。或いはこれに関連した行動に挺身することである・・・欲張った構想であるが、生ある限り敵を上げてみたい想いである。」

L氏(81歳女性)

現在の余暇活動－新舞踊、縫い物(衣装の仕立て)、赤十字奉仕団活動。

「・・・縫物の好きな私ですので、仲間の踊りの着物も仕立て、その人に合った寸法で仕上げるのでよろこばれています・・・毎日忙しく過ごし、読書やテレビは縁がありません。」

D氏(78歳女性)

現在の余暇活動－海外旅行、国内旅行、園芸(バラ)、古典文学、英語、書、ダンス。

「5月なると大輪、中輪のつるバラが狭い場所ですが、沢山咲きはじめます。何時まで出来るか解りませんが趣味の一つとして楽しみに頑張っています。」

E氏(71歳男性)・・・インタビューをまとめた。

現在の余暇活動－デイサービスセンターの運営、旅行、ビデオ編集。

「・・・仕事といえば仕事、余暇の中で仕事をしているという感じ・・・やってきたことが間違っていなかったと自信がもてる。これからはパラグライダーなどをやってみたい・・・」

- ・人と関わりのある活動が多く、その活動によってより交友関係を広げている。
- ・奉仕することによって、人から喜ばれることが継続の力にもなっている。

<60歳代後半および70歳代の男性：幼少から軍大国主義、疎開体験あり>

- ・仕事を継続しているため、役割も立場もはっきりしている。
- ・生活のほとんどが仕事中心になっている。
- ・家族などの援助があることで、旅行などの余暇活動をしている。
- ・人との関わりがあまりない個人で行うものに集中している。
- ・余暇活動に対しても、〇〇のためという意味づけがある。

<60歳代後半および70歳代の女性：幼少から軍大国主義、疎開体験あり>

- ・これまでに実施してきたさまざまな余暇活動のなかで、特に興味や関心の高いものに絞られてきている。
- ・その活動を通しての友人関係が、より良い関係になることで、継続の大きな要因になっている。
- ・家族や周囲の状況にあまりとらわれず、自分のペースで余暇活動に参加し、その時間を中心に生活している。

<60歳代前半の男性：幼児期に戦争体験、民主的教育への変換期を体験>

- ・さまざまな余暇活動にチャレンジしている。
- ・中心となる興味はあるが、あまり固執していない。
- ・現在行っている余暇活動の中でも、仕事などで培われてきた技術や知識を生かそうとしている。
- ・いろいろな分野に興味や関心を持ち続けている。

まとめ

以上のようにコホートの概念にそってそれぞれをまとめていくことで、60歳代から80歳代の高齢者の特徴が見出すことが出来た。この特徴の違い（コホート差）についても、前述の長田や Bob Knight は老化や心理療法の研究においてすでにとり入れられており、「年齢が進んでも安定状態を続ける能力、信念、態度ならびにパーソナリティ要素をもっており、それ以前、それ以降に生まれたグループとは異なる」ととらえている。また、音山（「高齢者の『こころ』事典」中央法規：2000）は「第2次世界大戦のように、その時代を通過したどのコホートもその影響を免れないものと仮定されている」とある。まさに、同じ時期に同じ環境にいたとしても、教育や戦争に向うというような国全体の状況がなければ、生き方や信条までに影響を及ぼすことは考えにくい。

コホートを把握することは高齢者をより深く理解することであり、余暇活動そのものについても、コホートによる差がみられた。

本研究の課題は、時間的な難点、人的難点などがあるが、これらを克服し、より精密な検討を行ない、発展させていくことである。